

会津若葉幼稚園(福島県会津若松市)

幼稚園内外での活動を通して、自然に興味関心を
広げながら、「触れて・感じて・考える」力を育む

☆この論文の選ばれたポイント☆

地域の問題を幼稚園として真剣に考え「森をよみがえらせる」という園の目標を立てて保育の中に取り入れています。その大きな取り組みの一つが、子どもたちの興味から始まった「炭作り」の2年継続した実践であり、地域にある森や施設など環境を生かして、子どもたちの興味を広げる題材を工夫して取り入れていることが評価されました。園全体の取り組みにできるように、そして、子どもたちが自分なりに考えたり、試したりできるように身近な環境も工夫されています。また、保護者とともに地域の自然や子どもたちの育ちを感じることができるようにという視点を持っていることもこの園の特徴です。

審査委員長総評より

主題：『科学する心を育む』
～ 幼稚園内外での活動を通して、自然に興味関心を広げながら、
『触れて・感じて・考える』力を育む～
～**炭**って面白いね！～

【本園が考える『科学する心を育てる』とは】

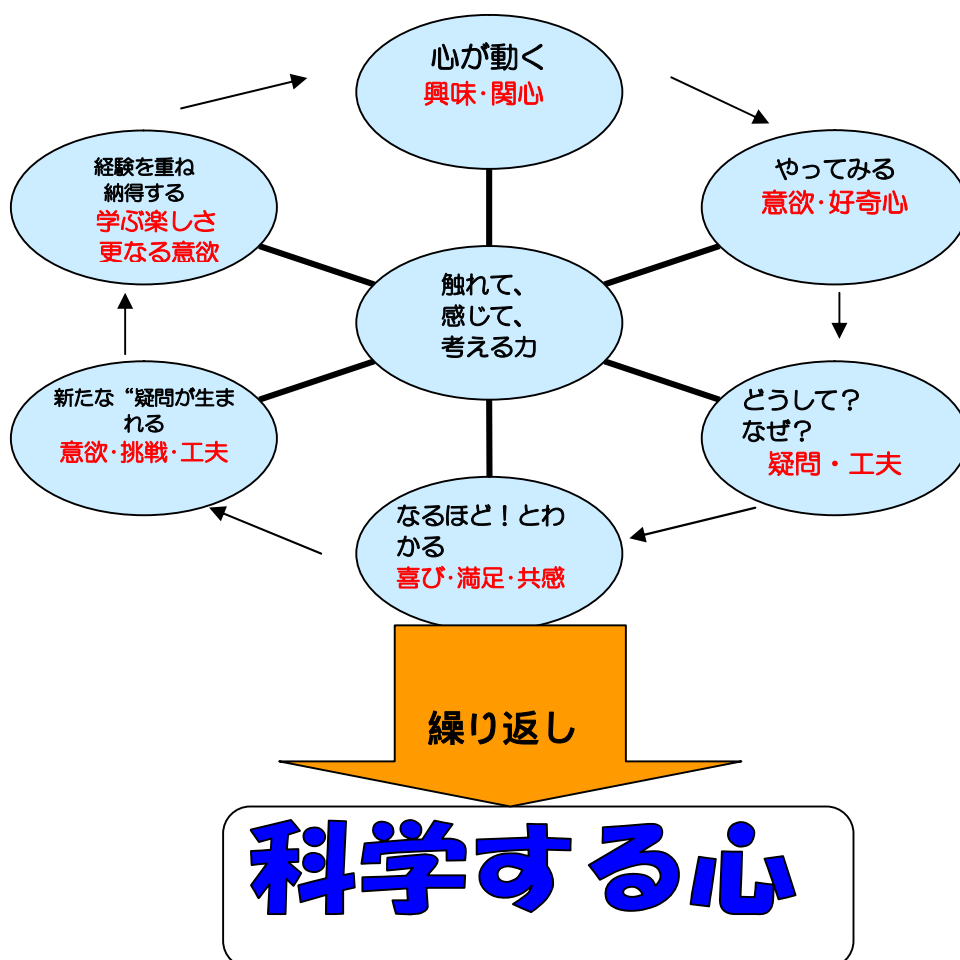
子ども達は、見たり、聞いたり、触れたり五感や身体を使って経験することで、驚きや不思議を感じ、心が動かされる。その動きをきめ細かく捉え、一緒に確かめる周囲の大人の援助が大切である。

実際にやってみて、“なぜ？どうして”が生まれ、自分が感じた問い試行錯誤を通じて、理解しようとする。疑問や不思議を深める手助けを心がけ、子どもの好奇心を持続させる配慮を幼児教育の場で進めることが重要である。

“もしかして かな”と予想し、“そういうことだったのか、なるほど”とわかる場合ばかりでなく、自分の出した答えが本当に正しかったのか新たな“疑問”を持つことも多い。

新たな自分達の問いの答えを探ろうとする探究心の育ちが、深い充実感や満足感につながり、それを繰り返し、自ら学ぶ楽しさ、面白さを味わっていく。

このような経験こそが、“科学する心を育てる”ことであると考えている。



【研究の手がかり】

本園では幼児期の科学する心は『直接的な体験を楽しく繰り返し行うことで、感動する気持ちが膨らみ、幼児の自ら『触れて・感じて、考える』力を育てるのではないかという考えに基づき、継続して『若葉幼稚園の森』の園外保育を実施している。

変化を話題にしながら不思議さや楽しさを味わうことが出来る『若葉幼稚園の森』は、幼児にとっていろいろな発見や感動を与えてくれる『魔法の森』である。

今回は『若葉幼稚園の森』に行く途中に設置されている、幼児が発見した国土交通省の広報用『電光掲示板（木炭作りの案内・説明）』がきっかけで展開していった『炭作り』の実践例から、『触れて・感じて・考える』力を培うとが『科学する心』の育ちをなげるのではないかという共通理解のもと、研究を進めていくことにした。

【研究の方法】

1．平成 17 年度実践事例

- 1) 森の間伐について考える
- 2) 木炭庵ひろばを見学する
- 3) 炭を知る
- 4) 炭作りを楽しむ
- 5) 出来上がった炭の活用を考える

2．平成 18 年度実践事例（前年度から炭に触れた子ども達）

- 1) 炭に触れる
- 2) 炭作りを体験する
- 3) 木炭庵ひろばを見学する
- 4) “木炭”を知る

以上の実践事例をもとに『触れて・感じて・考える』力を育むことが【科学する心】の育ちに結びついていくのか、探ってみることにした。



木炭ひろばで炭博士に質問しました

□□□若葉の森での活動について□□□

幼稚園からスクールバスで約20分の会津美里町にあり、自然の中で自由に四季に応じていろいろな活動ができるような約8万平方メートルの森である。

『若葉の森探険』を、3オクラスは年に2回・4オクラスは年に4回・5オクラスは年に6回、年齢に応じて【触れて、感じて、考える】経験～自分で見たり、触ったり、考えたり、確かめたりして「面白さ」「楽しさ」を感じることができるよう計画して行なっている。

3才【好奇心が芽生える】...・自然の中で「楽しかった」という直接体験をし、遊びが広がる。

4才【好奇心を伸ばす】.....・発見や驚きを友達と共有しながら、自分なりに答えを想像し、興味関心を広げる。

5才【探究心へのつながり】...・図鑑や虫めがねなどを使ったり周りから情報を得たりして、試行錯誤しながら自分なりの答えを模索していく。
・経験したことや新しく知ったことなどを友達や自分より小さなクラスの友達に教え、伝える・表現する。
・自分たちの森を大切に思い、守ろうとする。

このように、若葉の森での活動を継続して行うことで子どもたちの中に経験が積み重なることを大事にしている。

【H17までの若葉の森での年長児の活動】

H13 森の整備をして新しい道を作る（“空の道”）

H14 森で拾った枝や松ぼっくり、ドングリなどでグループでイメージしたオブジェを作る

H15 間伐を行い、木を掃った場所にみんなの休憩所を作る（子どもたちが“にこにこ広場”と名づける）
間伐した木を利用して壁掛けを作る
森の高低が分かるような立体地図を作る
森で迷った経験から、案内看板作りをする

H16 園で育てたカブトムシを森に放す
間伐を行う
園で育てたドングリの苗を植樹する

森探険をしながら子どもたちの気付きをみんなで膨らませ、森の整備を少しずつ重ねてきた。
また、森での活動と園内での活動との結びつきが強い。

触れて、感じて、考える力を育む

～ 幼稚園内外での活動を通して、自然に興味をひろげ、
感動する心・継続していく意欲・身体ごと積極的に取り組む態度を育む～

■子どもの姿、つぶやき
保護者の様子

保育者の願い・意図・援助

刺激

保育者が見取った
科学する心

事例①

森の木を強くするには…

H17年6月

雪で折れた木が多いことに気付いた子ども達に、森を元気にすることについて話し合うきっかけを投げ掛けよう。

「なんだか細い木ばかりだね。

なんでかな？」

刺激

■若葉の森の木について考える

まだ赤ちゃんの木で、

これから太くなるんじゃない？

水がないのかな？

栄養が足りないのかな。

じゃあ、栄養をあげれば太くて丈夫になるかもしれないよ！

もしかして
こうかな？
予想する

守るために何が
できるかな？
考える

刺激

■去年の年長児が実際に間伐をしたことを
思い出す

教えてもらったことある！

切った木を見せてもらったよ。

切ったところで何歳かわかるんだよね。（年輪）

森の木を切るって、森のために大切なことなんだ！！

そうなんだ！
知る

間伐して切った木って、どうすると思う？

捨てちゃうの？

何歳か教えて、黄色バッチ(年中児)に見せてあげようよ！

でも木はいっぱいあるから幼稚園が木だらけになっちゃう。

どうする？
考えを巡らす

この広場の、みんなが座ってるベンチは
間伐した木で作ったんだよ。

みんなが間伐したら、木を何に使う？

えっ、これ？すごい！

うーん、何を作ろう……。

■間伐した木をどうするか？それぞれ考えを巡らせるが、
なかなか自分なりの答えが見つけれない

事例②

【炭】との出会い

H17年9月

これまで“間伐をして森を守る活動”をしてきたので、今年度はさらに“間伐した木の利用”として、生活に馴染み深くなってきている“炭作り・活用”を計画し、自分達で自然を守っていくために“まずは自分が小さな一歩を”の意識を育てたいと考えていた。

「どんな風に導入をしたらいいだろう。子ども達はどんな反応をするかな...」

若葉の森への途中【木炭庵ひろば】（炭焼き小屋・大きな電光掲示板）に強い興味を示す
三角屋根の小屋があるよ！
煙突から煙が出てる！
大きなテレビに何て書いてあるの？



【木炭庵ひろば】

阿賀川河川敷にあり、川を守るために中州や堤防の伐採・間伐をして木炭を作って川の浄化に役立っている。国土交通省 阿賀川河川事務所の施設。

刺激

「“炭で川をきれいにしています”」だって。炭って知ってる？ここは川の木を切って、炭にしてるんだよ。

炭知ってるよ！家にあるよ。
冷蔵庫にある。真っ黒なんだよ。
えっ？黒いのに川をきれいにするの？

おもしろいな！
感じる

なんでだろう？
不思議

【木炭庵ひろば】の見学に行く

刺激

こんなに強い興味を持つなんて、やっぱり炭は子どもにとっても身近なものになりつつあるんだな。今がちょうどいいタイミングだ！

石窯、鉄窯を見学し、炭に触らせてもらう。
実際に炭で川を浄化していく流れを見学する。
川の水がきれいになっていく様子を目の当たりにし、驚いている。

木の中の水が煙(水蒸気)になって出るんだ！
木より炭が軽かったね。
小さな穴がゴミをとるから水がきれいになるんだ！
炭は家の冷蔵庫の中で匂いを取ってるのかあ。

そうなんだ！
知る

すごい！
感動

おもしろいな！
感じる



くんくん、
炭のにおいは
どんなかな？

事例③

幼稚園で炭を作ってみよう！

H17年10月

- 見学以来、炭への興味が大きく膨らむ
木炭庵ひろば楽しかった！
大きな窯があったね。
家で炭のこと教えてあげたよ。
ママに聞いたら、家にも炭があった。
今日も炭作ってるかなー。
幼稚園には炭ないの？

もっと
知りたい！
好奇心



ねえ、若葉の森の間伐した木を炭にしたらいんじゃない？
そっか！そしたら水をきれいにできるし、捨てなくていいね！
でも石の窯がないとできないんじゃない？

刺激

「“缶の窯”でもできるんだよ！」

ほんとに？
窯がないのに作れるの？
作りたい！やったあ！

刺激

【スチール缶での炭作り】

園内研修として『福島県 森の案内人』の方にご協力いただき、お菓子のスチール缶での炭作りを教わった。

- 実際にやってみる
煙が出てきた！木炭庵ひろばと同じだ！
できあがったらちょっと小さくなった
木の中の水が煙になったからだよ！

やってみよう！
試す

すごい！
感動



えっ！松ぼっくりも炭になるの！？
じゃあ、ドングリは炭になる？
葉っぱは？

刺激

炭の面白さをもっと感じることができるよう、保育者が『森の案内人』の方の研修で焼いた松ぼっくりやほおずきの炭を見せる。
「こんな炭もあるんだよ！」

これはどうかな？
追究する

- これは炭になる？これは？様々なもので試してみる
・ドングリ、柿、葉っぱ、割り箸
- それぞれ、「これは炭になりそう」「これはダメだと思う」と予測を立てる
全部炭になった！
炭にならないものってあるのかな？
いろんなもので試してみたい！
家から持って来ようよ！





子ども達の興奮した話し振りから、興味を持って協力して下さるようになる親子で相談して選んできたり、保護者の方自ら「こんなのどうですか？」と持ってきてくれたりする。

- ・りんご、みかん、バナナ、パイナップル、ビー玉、クリップ、ひも、リボン、靴下、チョコレート、あめ、おせんべい、ジュースの缶、つまようじ、枝、石鹸、ろうそく、ティッシュ、積木、木のおもちゃ などが集まる

■ 1つひとつ結果を予想しながら炭焼きする結果の共通点に気づき始める子どももいる
果物は全部炭になった。
布はならないんだね。
缶もならなかった。
溶けてなくなっちゃったのもあるよ。
枝でもおもちゃでも、木は炭になったね。

いろいろな結果から、炭になるものの特徴に気付くだろうか。難しいかもしれない。今はいろいろな炭作りを思い切り楽しめるようにしよう。

もしかして
こうかな？
気付く

きっと、土から出たり木から出たり
 (生えたり なったり) したのは炭になるんだよ。
 中に水 (水分) がないと炭にならないんじゃない？

そうかもしれない！
発見

これだけ結果を分析するなど予想していなかったもので、子ども【知りたい】欲求、それに向かって【調べる】考察力に改めて、とても驚かされた。

家庭でも炭が話題にのぼることが増えたという声が寄せられる
 「炭について調べたいと言うので、図書館に行ってきました。
 易しい本がなかったので残念です。」
 「おばあちゃんが炭を入れてご飯を炊いているので、見せてもらってきました」

もっと
知りたい！
好奇心



事例④

炭を使ってみよう！

H17年10月

炭作りが十分楽しめた。大発見もあった。できた炭をどんなことに活用するかみんなで考えて、生活に取り入れていこう。

「作った炭で何かできるかなあ？」

刺激

触ると黒くなるから、絵が描けるんじゃない？
木炭庵ひろぼみたいに、

幼稚園で作った炭も水をきれいにするのかな？

松ぼっくりの炭はきれいだから飾ったら？

木炭庵ひろぼで、炭はにおいを取るって教えてもらったよね。

おぼあちゃんが炭と一緒にごはん炊いてた。おいしくなるんだって！

何に使えるかな？

考える

自分たちに
できることは？

考える

試してみる

- ・炭で絵を描く
- ・水がきれいになるか実験

やってみよう！

試す

水槽を使って水がきれいになる様子
がすぐに見て取れるようにしよう。
水槽・泥・ポンプを活用

■水がきれいになっていく様子を毎日観察する

木炭庵ひろぼと同じだ！

小さな穴が汚れを取るんだよね。

臭いにおいも取るんだよね！

炭ってすごい！

感動

炭の性質に気付く

■においを取る特徴を活かし、幼稚園の中の“臭いところ”はどこか話し合い、その場
所に炭を置くことにする

くさいのはトイレ！

靴箱！

ザリガニの水槽！

赤バッチ黄色バッチ（年少・年中）のトイレにも置いてあげよう！

やってみよう！

試す

できることが
あったよ！

**嬉しさ
満足**

炭っていろんなことができるんだね。

炭ってすごいな！

感動

刺激

炭の様々な活用法を知らせたい。
「お風呂に入れたり、飲む水に入
れたりすると、やさしい水になる
んだって。」

「子どもに言われて家にも炭を置くようになりました」という話が多く伝えられる

■年中クラスの子どもから「炭を置いてくれてありがとう」と言われる

■おじさんから、炭を混ぜると

畑の土がいい土になると教えてもらう

今度の緑バッチ（次年度の年長）に、

「野菜作る時に炭を砕いて畑の土に混ぜて」
って教えておこう！

喜ばれた！

役立った喜び

教えてあげよう！

知識の引継ぎ

H17事例 考察

“自分から小さな一歩”の気持ちを

炭の活動を通して、小さなことを積み重ねることが“自分たちで自然を守っていくこと”に繋がるということを伝え、“まずは小さな一歩を自分が”という気持ちを持ってほしいと考えた。

保育者の意図と子どもの意欲

活動計画を立てた時点では、どのように導入していくか、子どもがどんな風に反応するか少し心配だったが、子どもの目線の先にあるもの、興味を持ったものに敏感でいることで、子どもの気持ちの高まりと共に活動を進めることができた。その場の思い付きではなく、また無理のあるやり方ではなく、保育者側（環境）からの刺激と子どもの気持ちの両方があるこそだということに改めて感じた。

膨らんだ部分・足りなかった部分

当初は、【木炭庵ひろば】での体験から実際に炭焼きを行い、焼いた炭を生活に生かすところから自然を守ることを考えていく計画だったが、子ども達は「何が炭になって何が炭にならないか」というところにとっても興味を持ち、この活動が大きく膨らんだ。

炭になるかならないか自分なりに予測をしていて、“結果を見たい、知りたい”と、自分なりの方法（これまでの結果から関連付けようとする、お家の方と図書館に炭の本を探しに行く、炭を持っている自分のおばあちゃんに話を聞くなど）で追求しようとする姿があった。また結果から炭になるものならないものの共通点を探ろうとし、「土から生えたり木から出たりしたものは炭になる」「中に水（水分）がないと炭にならない」という、教師も驚くような考察をしていた。子どもの興味に合わせて活動を変化させていったことで得た部分は大きかったと思う。しかし、【炭作り】【炭の活用】だけではなく、【森の木の間伐・間伐した木の利用】からの繋がりを考える時間が少なかったと反省する。

赤バッチ（年少）さんのお部屋に 持って行ってあげようね！



地域から受ける刺激

今回、国土交通省 阿賀川河川事務所のご協力で見学させていただいた【木炭庵ひろば】から大きな刺激をもらった。この見学なくては活動はここまで膨らまなかっただろう。「保育者が願う子どもの成長のためにタイミングよく刺激を与える」その方法についても、視野を広く持ちアンテナを張り巡らせ、保育者や友達・家族など幼稚園の環境のみならず地域の様々なところを活用していくことが必要である。

やわらかい炭で
絵が描けた！



みんなの炭が
できたよー！



それぞれの年齢ごとに【触れて、感じて、考える】経験を積み重ねる

年中クラスは「何してるの？」と興味を持って炭焼きの様子やトイレに置いた炭を見ていたので、“炭”が心に残っているといいなと思った。年長クラスは昨年 間伐の様子を聞いたことや切った木を見せてもらったことが印象に残っていた。

今回の炭焼き活動は年長クラスだけで進めたが、全学年に投げかけ、それぞれその年齢なりの捉え方で“炭”や“間伐”を感じたり考えたりする経験を積み重ねると、年長での活動がさらに広がるのではないかな。



炭で遊んで、
手が真っ黒だー！

■子どもの姿、つぶやき

保育者の願い・意図・援助

刺激

保育者が見取った
科学する心

事例⑤ 2年目の炭作り H18年4月

春休み中『福島県 森の案内人』の方にご協力いただき、若葉の森の中の【にじの小屋】（子どもの声に応え、以前の保護者の方が建てて下さった三角屋根の休憩所）に炭焼き窯を作る。

園外保育で若葉の森の炭焼き釜・炭焼きを見学する
煙突がついてる。

手が黒くなるね！

焚き火の跡など、焦げているものに「炭でしょ！知ってるよ！」と反応するようになる。



若葉の森で作った炭！

すごい！
感動

そうなんだ！
知る

炭がどんなものなのかよく分からないうちに「炭」という言葉だけが浸透しているように思える。昨年の年長児の炭焼きをどんな風感じていたのか探りながら、炭の性質に気付けるように生活の中で炭に触れる機会をどんどん取り入れていこう。

刺激

野菜作りに向けて炭で栄養のある土が作れることを知らせる。
トイレに脱臭用に置いてある炭の話をする。
「前の緑バッチ（年長）が、幼稚園で作った炭なんだよ！」

野菜の栽培のために、昨年の年長児が作った炭を砕いて混ぜて土作りをする

おいしい野菜ができるように、いい土になってね！

この炭、煙突ないのに幼稚園で作ったの？

知ってるよ！黄色バッチ（年中）の時見てたもん。

缶に入れて作るんだよね。柿の炭もあったよ！

トイレに届けに来てくれた。

くさいの取ってくれるんだよね。

そうなんだ！
知る

やってみよう！
試す

見たこと聞いたことは心に残っているんだな。今度は実際に経験しながら関心を深めていこう！

■幼稚園での炭焼きに挑戦する

・輪切りにした木、松ぼっくり、葉っぱ、石、鉛筆

そうだ こうやってやってたよね～。
缶が焼けて黒くなってきた。
缶の間（フタの間隙）から何か出てきたよ。
煙だよ！焼けたから出てきたんじゃない？
缶が焼けたから？
黒い水が出てきた！
何？タシみたい。炭ダシだあ～。
鉛筆の書くところ（芯）じゃない？

やってみよう！
試す

すごい！
感動

なんでだろう？
不思議

もしかして
こうかな？
予想する

年少、年中児が見に来る 何してるのー？

炭だよ！
炭作ってるの。 炭ってなーに？

刺激

炭って、黒くて絵が描けるんだよ！
においが取れるんだよ。
あと、畑の土も栄養が多くなるんだよ！

教えて
あげたい！
表現



煙 出たかな!?

見たこと聞いたこと自分の経験したことが嬉しくて、小さいクラスの友達に伝えようとする姿があるな。この姿を大切にして、身近な身の回りにある炭に触れていけるようにしよう。

■できあがった炭を見る

できてる！炭になってる！真っ黒だもん。
石が光ってる。木が割れてる。
鉛筆折れてたのに芯が出てる。
絵描いてみようよ！
木で描けるよ！
石は描けないよ。なんでー？
松ぼっくりでも描けるけど、すぐ割れちゃう。
だって炭の松ぼっくり弱いんだもん。
冷蔵庫に入れると硬くなるんじゃない？
えーでもそれは氷だから溶けちゃうよ。

すごい！
感動

おもしろいな！
感じる

なんでだろう？
不思議

どうなのかな？
考える

もしかして
こうかな？
予想する



できてる できてる！
木が少し ちっちゃく
なってるね～

木の炭で絵が
描けたよー！

事例⑥

炭博士に会いに行こう！

H18年7月

実際に炭を作ってみて、炭の硬さ・柔らかさなどイメージが広がったな。やはり今年も【木炭庵ひろば】に見学に行って炭のことを教えてもらって来よう！そして刺激をたくさんもらって来よう。



炭って、どうして畑の栄養になるのかな。どうやって くさい臭いを取るのかな？それから、なんで硬いのと柔らかいのがあるのかなあ。知ってる？

…知らな～い。
なんでだろうねー？
炭の中に薬が入ってるのかな。
炭がいい匂いだから？
えー、炭はいい匂いしないよ。

刺激

なんでだろう？
不思議

どうなのかな？
考える

もしかして
こうかな？
予想する



【炭博士】のところに行って、教えてもらおうか？実は炭博士は何でも知ってて、前の緑バッチ(年長)も炭博士に炭のこと教えてもらったんだよ！

え～、炭博士!?
炭博士に教えてもらったから、前の緑バッチさん何でも知ってたの？
行きたーい！
なんでくさいの取るのか教えてもらいたい！

もっと
知りたい！
好奇心



もう壊れちゃった
炭もあるよ。
くんくん、炭のにおいは？

■【木炭庵ひろば】に出掛ける



・川の蛇行や流れの妨げを防ぐために川の木を切り、炭を作っていることを聞く。木を切ることは川を守ることに繋がると教えてもらう。

木を切ると川が元気になるんだね。

・焼くと煙が出ること、煙の色が見えなくなったら出来上がりということは幼稚園での炭焼きの経験で知っていたが、あまりに大きな窯で、大きな木（1mぐらい）を炭にしているので驚く。

こんなに大きな木!?

ほんとに炭になるの?

（実際に触らせてもらい）炭だ～。硬い!匂いしない。

・鉄の窯や石の窯で炭を焼くこと、1000℃で2日間焼くと硬い炭になることを知る。

あんな大きなところで2日も焼くんだ。

おっきな窯で硬い炭を作ってみたいなあ・・・。

この前作った炭みたいに
壊れないね。

すごく熱い温度で焼くんだって。

・木の中に水（水分）があること、窯に入れて焼くとその水が煙になって出るので、炭には水がないことを教えてもらう。

・炭にする時に木から出た水（煙を別の機械に入れ還元する）は“木酢液”^{もくさくえき}と言って、花壇に撒いたりして使うことを知る。

もくたんえき?もくさくえき?

・炭の中に小さな小さな穴が開いていてにおいや汚れを取ることを真剣に聞く。

・川の水が炭のプールを通ることできれいになっていく様子、きれいになった川に植物が生えている様子を見て、「炭の力ってすごいんだ・・・」と感心する。

■炭博士に質問をする

松ぼっくりの炭でもできますか?

炭ってすごい!
感動

そうなんだ!
知る

おもしろいな!
感じる

炭博士「松ぼっくりでも炭はできるけど、このぐらい（1mぐらい）大きな木で炭を作らないと形のあるしっかりした炭になりません。木で作った炭だから“木炭”って言うんだよ。」

もくたん……………。

もくたん…
新しい言葉との出会い

■幼稚園に戻ってから

炭博士ってほんとに炭のこと何でも知ってたね。

炭ってすごいよね。

炭じゃないよ。“木炭”だよ!

“木酢液”を幼稚園の畑に撒けばいいんじゃない!?

あっ!前の緑バッチ（年長）「畑に炭を混ぜて」って言ったよね?

そうそう、みんなの畑に混ぜたよね。

炭博士も言ってたもん。前の緑バッチの言うこと本当だったんだ!

ほくも炭博士になれたかもしれない!

炭博士ってすごい!
感動

もっと
知りたい!
好奇心

なるほど!
納得

見たり聞いたり経験したりしたことに、今回知った事が重なって納得できて、去年の年長児からの“知識の引継ぎ”ができたな。

事例⑦

“木炭”を使ってみよう！ H18年7月

炭博士に質問！



■【木炭ひろば】でいただいた炭を活用しようとする幼稚園でも“木炭”で水をきれいにしようよ！

川ないよ。

プール？

きんぎょの水槽とかは？

ウン、炭で水槽きれいにしようよ！

お水きれいになるからね、きんぎょさん！

今トイレに松ぼっくりの炭があるから、この“木炭”置こうよ！

小さな穴がくさいの取ってくれるんだもんね！

赤バッチ（年少）のトイレにも置いたら？

この前「炭ってなーに？」って言ってたから教えてあげなくっちゃ。

やってみよう！
試す

自分たちが
できることは？
考える

教えて
あげたい！
伝える



前の年長から引き継いで 今回の経験で自分のものにしたことを、また次の年代に伝えようとしている。こんな風に、幼稚園生活の様々な場面で、様々なものが引き継がれていくんだなあ。

去年の年長児は“色々なものでの炭作り”への興味が大きかったけれど、今年の年長児は“役立つ炭作り”への関心が強い。作った炭を生かすことを意識している。活動の展開と共にこの気持ちが大きくなるように計画して進めていこう！

炭を生かすことと同時に炭にする木のことを考えて、それが“間伐”に繋がるといいな・・・

「木炭庵ひろばは川を元気にするために木を切って炭を作ってたよね。みんなは今度どこの木で炭を作る？」

刺激

■炭にするために切ったら木がかわいそうだね。

じゃあ、いらぬ木で作ったら？

若葉の森の木は？折れてるのもあるよ。

お部屋に、「間伐した木」って書いて置いてあるよね。

川みたいに間伐したら、森が元気になるんじゃない？

森の間伐について意識するようになる

守るために、
こんなのはどう？
考える

次回の若葉の森探険では、間伐について詳しく知らせよう！

H18事例 考察

年長から年長への引継ぎ

2年目の実践で、今年 年長になった子どもたちは昨年度の年長クラスの様子を見ていたので、生活の中に「炭」という言葉が自然に存在していた。年中の時に見たり聞いたりしたことを自分なりに捉え、それぞれの中に何かの形で残っているものがあると考えるのスタートだった。

若葉の森に炭焼き窯ができ、保育者は、子ども達にとって炭が更に身近になるかと考えたが、年中の時に見ていたことはそれぞれ断片的で、繋がっていなかったようだ。しかし、自分が年長になり、自分が経験することによって、前年に見たり、聞いたりしていたことに対して「そういうことだったんだ！」と納得することができた。

納得して、自分のものとして飲み込むことができると、「じゃあ、これはどうなんだろう？」と新たな疑問をもつことがある。「もっと知りたい」という欲求が生まれ、活動が深まり、そこで得たことを下の学年（次年度の年長）に教えたい、伝えたいという思いが強まる。このような“知識の引継ぎ”を見取ることができた。



それぞれの中にある欠片を繋げる

前年度の年長の姿を見たり話を聞いたりしたことで持った“炭”に対する知識やイメージが一人ひとり断片的であったので、みんなで炭焼きをして、共通の経験からそれぞれの心の中にあるイメージを繋げようと考えた。実際に炭焼きを経験すると、焼くもの・匂い・煙・色・硬さ・使い道など着眼点はそれぞれだったが自分の視点で“じっくり見る”ことをしていた。

「教えてあげたい」思い・「憧れ」の思い

昨年度、年長クラスだけの活動になってしまったことが反省点のひとつであった。今回、年長児の炭焼きを他の学年の子どもにも見えるようにすると、年中少児は「何してるの？」と興味を持ち、年長児は自分が経験したことや知っていることを小さいクラスの友達に伝えようとする姿があった。このような、年長児の「教えてあげたい」思い・年中少児の「憧れ」の思いを、炭作りに限らず様々な活動で生かしていくと、【触れて、感じて、考える心】は育まれると考える。



鉛筆も
炭になったよ!!

継続したねらい、深まる活動

H17

【森の間伐について考える】

【木炭庵ひろば】

【炭を知る】

【炭作りを楽しむ】

【炭の活用】

H18

前年度から炭に触れる

【炭の活用】

【炭作り】

【木炭庵ひろば】

【“木炭”を知る】

【“木炭”の活用】

【森の間伐について考える】

子どもの反応や興味の広がりによって活動の方向が変わってきたが、根底には「こんなことを感じてほしい」「こんな気持ちを育てたい」という保育者の願いや意図、計画がある。保育者自身手探りではあるが、継続して行ってきたことで、同じところを辿っているようでも活動が深く、濃くなってきていると感じる。



見て、葉っぱの炭!



「木炭」っていうんだって

刺激を受けて、やわらかい心が膨らむ

継続して行った2年間を振り返ると、やはり“刺激”が必要不可欠であった。異年齢児から刺激を受けることもあれば、友達言葉、保育者の言動、家庭でのやりとり、【木炭庵ひろば】のような地域から受けることもある。これは行き当たりばったりの刺激ではなく、保育者のねらいや意図による計画された刺激である。様々な刺激を受けて、子どもたちの中に「おもしろい!」「なんで?」「やってみよう」「もしかして～かな」「そういうことか」「教えてあげたい」...やわらかい科学する心が次々生まれ、大きく膨らんでいるのが見取れた。

改善のポイント

【若葉の森と仲良くなろう会】

～共に感じ、共に育つ～



・“自然を守っていく気持ち”を子ども達だけではなく、保護者の方にも持っていただきたいという願いと、間近に子ども達の発見や感動などが動く姿を見て、成長を実感していただくと共に、保護者の意識の変化、高まりが子ども達の更なる意欲につながることから、この活動を考えた。厳しい冬を越えた森は、倒れている木もたくさんあり、整備が必要である。保護者の中には、森の案内人をしているおじいさんがいたり様々な分野で活躍している方がいるので、そのような方から新たな刺激を受け、子ども達も保護者も保育者も学び、育ち合っていきたい。

【間伐の意味を知り、間伐した木の活用法を考える】

～生命の大切さを知る～

・間伐した木の活用法として、木炭だけでなく、木工クラフトの材料としたり、森での憩いの場に使ったり、しいたけ栽培をするなどいろいろな活用法を順次試みていきたい。活用法を考え、実践することで、森の恵みに感謝し、食への関心や自然と関わりながら生きることの大切さを知る。



【他の学年へもやっていることを伝える機会を作るようにする】

～年齢ごとの触れて、感じて、考える心の育み～



・今年度の考察にもあったように、各年齢ごとの『触れて、感じて、考える』という経験の積み重ねが、年長になって大きく生きてくる。年中少児の年長児への“憧れ”や“尊敬の思い”と、年長児の“わかっていることを伝え広げたい”、“教えてあげたい”という気持ちを大切に、交流の場を持つことで、お互いの育ちに刺激となる。次年度は、計画的に交流の場を持ち、年齢ごとの触れて、感じて、考える心を育てていきたい。

5歳児	期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
科学する心の育ちが期待できる遊び及び活動	若葉の森活動内容	第1回若葉の森探検(5月) (ねらい) 周りの自然に目を向け、春探しをしながら、興味を持って見たり触れたりする。 ・葉や花などの色や形を探りながら、春探しをする。 若葉の森と仲良くなる会(4月 親子参加) (ねらい) 親子で若葉の森を守ろうとする気持ちを持つ。 ・親子一緒に森の整備をする。	第2回若葉の森探検(6月) (ねらい) 春の若葉の森探検で気付いた事がどのように(ねらい) 意欲的に若葉の森探検を楽しむ。前回は気付いたことや不思議に思ったことがどのように変わったか探り、興味を持って見たり触れたりする。間伐の必要性を知り、森を守る気持ちや大切に思う気持ちを持つ。 ・秋の身近な虫や草花に関心を持って見たり触れたりする。 若葉の森と仲良くなる会(10月 親子満足) (ねらい) 親子で若葉の森を守ろうとする気持ちを持つ。 ・親子一緒に森の整備をする。間伐した木の活用方法を考える。	第3回若葉の森探検(9月) (ねらい) 意欲的に若葉の森探検を楽しむ。前回は気付いたことや不思議に思ったことがどのように変わったか探り、興味を持って見たり触れたりする。間伐の必要性を知り、森を守る気持ちや大切に思う気持ちを持つ。 ・秋の身近な虫や草花に関心を持って見たり触れたりする。 若葉の森と仲良くなる会(10月 親子満足) (ねらい) 親子で若葉の森を守ろうとする気持ちを持つ。 ・親子一緒に森の整備をする。間伐した木の活用方法を考える。	第4回若葉の森探検(11月) (ねらい) 深まっていく秋の自然の中を歩き、前回の若葉の森の様子との違いを探る。 ・深まった秋の自然に触れ、冬の訪れを感じる。・厳しい冬を乗り越えて生きている生命を感じ、自然の偉大さを触れる。	第5回若葉の森探検(3月) (ねらい) 冬から春へと移り変わっていく若葉の森の様子を探る。							
	園での活動	クラスの飼育物の世話をする。(ザリガニ・メダカ・金魚・カブト虫など) 野菜の栽培と世話・収穫・会食(二十日大根・トマト・きゅうり・ナス) 園庭の虫捕り(あり・ハサミ虫・ダンゴ虫・ミミズ・セミ・トンボ) 園庭の果樹(りんご・サクランボ・柿・ぶどう・梅)の世話・観察・収穫 砂・水・泥遊び(山・トンネル・ダム作り・団子作り・色水遊び・船作り・プール遊びなど)	園外の活動	稲作り・種初(発芽の様子・生長の世話・観察)から稲の苗作り 田植え お泊り保育(坂下自然の家)・アニマルランドの冒険で、若葉の森との共通点や違いを感じる。 阿賀川『木炭ひろば』見学 炭の特徴や性質について知る。	手巻き寿司パーティー 餅つき	カレーストラン 種もみ伝達式							
環境構成や援助する上での留意点	・年長になったことで安心して自分の思いを出せるように、一人ひとりの内面に寄り添う工夫をする。 ・探検の目的を知らせ、意欲を持って見たり触れたり感じたりしながらついた喜びが味わえるようにする。 ・子ども達のつぶやきや気持ち、驚きを受け止めたり共感したりして気持ちを表現する心地よさを感じ取れるようにする。 ・飼育物や野菜の世話や観察を通して生命あるものに対しての愛情が持てるようにする。 ・稲作りを通して米に関心を持ち、自然の豊かさを知らせる。 ・見返り評価票を作成、記入し、活動の反省、評価、改善に役立てていくようにする。	・一人ひとりの意見や発想を大切にしながら、友達と協力して探検や遊びが進めていけるよう見守り、友達とのつながりを深めていけるように導く。 ・バツヤやココロゴキ、鈴虫、トンボなどに触れたり観察したりして、初秋を感じ取りながら生き物に親しみかもてるようにする。 ・大きいものや保管が難しいものは、写真を活用したりそのものを保存することで、自分たちの図鑑や標本を作り、いつでも見ることができるとして、探検心を促す機会とする。 ・昼と夜の空の様子、月や星、台風など機会をとらえて、自然のすばらしさや変化に素直に感動できるように、教師も一緒に興味を持って見たり、調べたりする。 ・稲刈りを経験したり、園庭の果物、野菜を収穫したりしながら、植物の生長や自然の仕組みに関心を持つようにする。	・自然と触れ合う中で教師自身が感性を養い、驚きや疑問を抱け掛けたり、感じたことを言葉に出したり、子どもとのつぶやきに共感したりしながら、子ども達同士気持ちを表現し合う喜びが味わえるようにする。 ・写真や絵を活用し、「もっと見たい」「もっと探したい」という気持ちを育て、探す・探ることを楽しめるようにする。 ・友達と泊まる経験が、一人ひとりの自信となり、自分で考え工夫しながら生活する楽しさを感じ取れるようにする。 ・稲の生長や田の様子(水や動植物)など、興味関心を持って、観察するよう導く。 ・木炭ひろばを見学することで間伐の必要性を改めて感じ、炭の性質や特徴を知るとともに、炭を身近に感じられるよう働きかけがける。	・継続して若葉の森探検を行い、子ども達が気づいたことを引き出し、四季の移り変わりについて感じ取れるようにする。 ・どんぐりや木の葉を拾ったりする中で、秋の自然の変化に気づき、それらを使った遊びを多く取り入れていく。 ・間伐した木がいろいろな利用ができることを知らせる。炭作りでは炭の効用を探り、身近な活用(水質浄化)をし、不思議さ、すごさを感じられるようにする。また、他の学年へもやっっていることを伝える機会を作るようにする。 ・自分達で収穫した新米で、手巻き寿司パーティーを行い、食べることに対する興味関心を高め、健康な身体作りを意識するようになる。	・うさぎの足跡や木の芽の膨らみを通して、厳しい冬を乗り越えている生命があることを知らせ、自然の偉大さと生命を大切に思う気持ちを育てていくようにする。 ・友達と力を合わせて遊ぶ中で、責任を持って自分の役割を果たすことや、友達を思いやることの大切さに気づかせる。 ・雪、氷は機会を逃さずに取り入れ、見たり触れたりし、寒さや冷たさなどを感じたり知り好奇心を持たせるようにする。 ・戸外で出会う自然物についてあらかじめ調べておいたり、それに関する図鑑や絵本をタイピングよ提示できるようにし、子ども達の興味にこたえられるように心がけておく。 ・年少中クラスの友達に自分達でカレーストランを作ったこと、やり遂げた喜びを味わう機会とする。また、年中クラスに稲作りを引き継ぎ、卒園を意識し立立つ喜びが味わえるようになる。								